

1910

Hiramou Museum

2021



令和3年6月24日、本校の応接室に「平盲ミュージアム」がオープンしました。数年来話題に上っていたミュージアム構想を耐震工事が終了した本校舎への引っ越しを機に実現させました。



副校長の呼びかけで校舎内、寄宿舎のあちらこちらから本校の111年の歴史を物語る貴重な品々が新たにたくさん発掘、発見されたのです。

これまで金庫に保管されていた明治時代の盲人学校設立趣意書などの重要資料に加えて、新たに発見された大正時代の生徒の成績表だったり、



点字に関する年代物の機器類や、手作りの触察用教材教具など、本校が積み上げてきた教育の歴史を間近に見て体験できる資料館となっています。



「リリン」と懐かしい音を出すダイヤル式黒電話の内線があったり、木製の学習椅子や机が置かれていて、昭和レトロな懐かしい雰囲気が漂っています。



オープニングセレモニー

テープカットする佐藤校長と
金目エコミュージアム米村代表

毎年、秋山博展を開催して平塚盲学校の歴史を大切に保存し続けている、
金目エコミュージアム（米村康信代表）の皆さんも参加してのオープニ
ングセレモニーとなりました。

校主 秋山博先生
に関する展示から





校主 秋山博先生

- 秋山先生は腕の良い鍼灸師として知られ、治療所には県内外からの患者が列をなし、近所に泊まり込んでまで治療を乞うほどでした。
- 盲人への学問の機会と職業的自立の道を築くために明治43年4月9日、秋山先生によって金目村に私立中郡盲人学校が誕生しました。
- この時の生徒は7名、校長には伊達時氏が就任し、秋山先生は「校主」となりました。先生は亡くなるまで無償で実技を教え続けたということです。



王羲之
晋书



秋山先生レリーフ

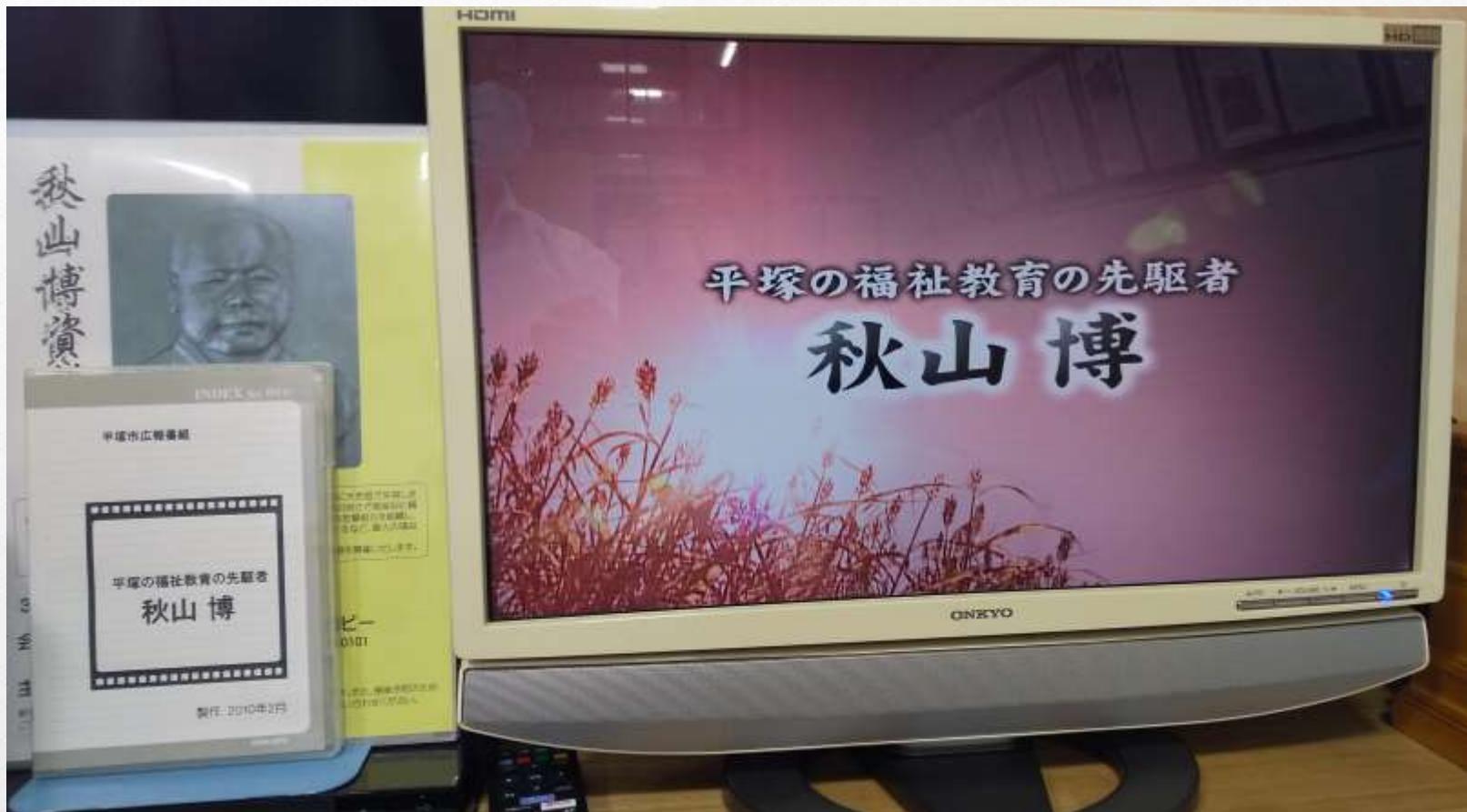
- 100周年記念事業で、本校舎玄関入ってすぐ左手に設置されました。ボタンを押すと音声ガイドが流れ、秋山先生の功績を紹介します。
- アナウンスは「現在、そして将来にわたり、平塚盲学校に関わる者は、苦難の中で開校し、学校の存続に力を尽くした、秋山の志を胸に刻み、未来へと継承していきたいと思っています。」とのことばで締めくくられています。





紙芝居「山なみ晴れて」 秋山博物語

- この紙芝居は金目エコミュージアムのメンバーが「地元の偉人の功績を子供達に伝えたい」という思いから、盲人教育の先駆者で、現在の平塚盲学校の創立者である秋山先生（1863—1918年）の没後100年を記念し制作されたものです。
- タイトルの「山なみ晴れて」は本校校歌の一節からとられました。





DVD 平塚の福祉教育の先駆者 秋山 博

- このDVDは平塚市広報番組として2010年に制作されたものです。
- 幼いときに失明し、辛苦をかさねて、名はり医となった秋山博。その後私財を投じて「私立中郡盲人学校」を開校します。今もこの秋山博の精神を受け継ぐ人たちを通して、平塚の福祉の原点を探ります。
- ミュージアム内でいつでも見ることができます。

世は競うて驕奢の風に趣きます。都門の子弟は虚栄に走り、贅澤を極め、千金を土芥視して得得たるものがあります。

この際、願くは私が語らんとする一條の物語に耳を傾けしめよ。

斯かる家庭もあり

村井弦斎

をりをり草



明治四十五年十月秋季増刊号掲載



「をりをり草」村井弦齋

- ・「この秋山博氏という鍼医は、相模国の隠君子で、その人格の高潔なること実に敬服すべきものがあります。」
- ・「秋山氏の鍼といつては相模一国に有名なるのみらず、遠く甲州信州駿州尾州辺から治を乞いに来る患者が金目村へ郡衆して、金目村の旅館は秋山氏のために生活しているというくらいです。」
- ・「盲人学校を起して不幸なる盲者流を救済せんと、数年前よりこの大志願を立て、多忙にして寸暇無き身を顧みず、独力を以て東西に奔走し、遂に四年以前、金目村に一の盲人学校を起しました。」



明治四十二年五月
中華人民學校基金寄存名簿

触れる展示物 紹介





仲村製標準点字器

- 明治34年の秋、金物職人だった仲村豊次郎のところへもみ治療に来ていた盲人から点字器が不足して困っていることを聞き、心を痛めた豊次郎は意を決して点字器の試作研究に乗り出します。出来上がった製品が絶賛され、以後「仲村家」は点字器具を作製する業者となりました。
- この木製の点字器は最も普及した標準点字盤のベストセラーですが、現在では製造されていません。プラスチック製に比べて木のぬくもりが良かったといわれています。





ライトブレーラー

- ・パソコン点訳が普及する以前に活躍した点字タイプライター。なるべく安い価格で持ち運べる点字タイプを提供したいという経営者の方針で開発され、2016年の生産終了時も2万円台の低価格でした。6つのキーの形と横に動く姿から「カニタイプ」と呼ばれて愛されてきました。
- ・このライトブレーラーは点字盤と同じく上から下に点が打ち出されるので、左右逆転した指使いをしなければならず、また、打った点字を確認するのに、点字器本体部分をガチャッとはずして持ち上げて裏面を確認しなければならない面倒なこともあります。





ナカムライター

- 点字器製作のトップメーカー、仲村点字器製作所（創業明治34年）による点字タイプライターです。昭和15年、三代目茂男氏が製作に本格的に参画し、初代豊次郎氏、二代目謙次氏の指導を受け、伝統的な技法に基づく点字機器類の製作に従事しました。昭和23年、このナカムライターを製作販売します。
- 優れた点質の点字がリアルなタッチで軽快に打てて、点字が上に出るのですぐ読めるのが特徴です。一方、頑丈なために重くて持ち運びが不便、手造りで時間がかかるため価格も高くなりますが、これらを補って余りある価値ある製品といわれています。





足踏み式点字製版機

- 点字印刷を行う時に使われていた製版機です。二つ折りにした亜鉛板または塩ビ板に6点キーと足踏みペダルで点字を打ち、原版を作ります。行替えは、両手でカチッカチッと歯車を2回引き上げて打っていきます。両面書きができ、裏面は板をひっくり返してセットし、表面と1行ずらして打っていきます。
- できた原版の二つ折りのあいだに紙をはさんで、点字印刷機の回転している二つのゴムローラーの間に通してプレスすると、紙に点字がうつり、ひとつずつ原版で何枚も印刷することができます。





パーキンスブレーラー

- ・パーキンス・ブレーラーは、世界中でもっとも多く利用されている点字タイプライターです。機械の頑丈さ、使い易さ、点の鮮明度では定評があります。重くて持ち運びには不便ですが、点字が表面に出てくるため、タイプしながら文書を読むことができるのが特徴です。
- ・米国パーキンス盲学校で1951年に開発されて以来、世界で広く使われるようになり、現在までその形は大きく変えていません。





レーザライター

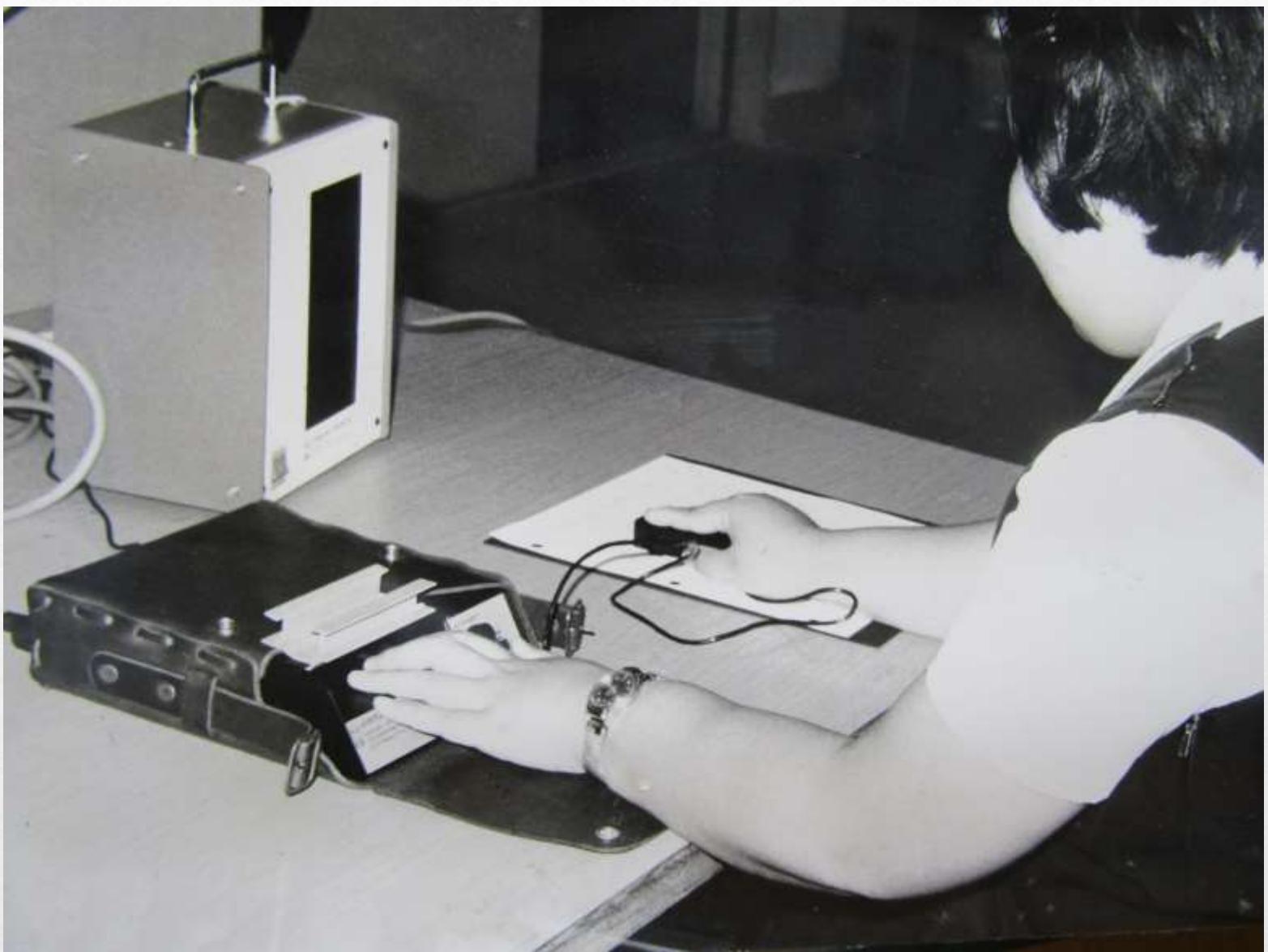
- レーザライターは、表面作図器といいます。一見クリップボードのような外見をしていますが、プラスチック板の上に薄いゴムが貼り付けてあります。そのマットの上に特殊なレーザライター用紙をセッタし、その上にボールペンで文字や図形、絵などを描くと、描いた部分が浮き上がってきます。
- 簡便に図や文字を凸線で表すことができ、すぐに触覚的に読み取ることができます。視覚障害者も触覚を使い、書きながらその内容を確認することが出来るというものです。





カナタイプライター

- まだ、パソコンもワープロもなかった時代に、カナ文字表記の技術による視覚障害者の職業的自立の可能性を開こうとする動きがありました。日本盲人職能開発センターの開設者である松井新二郎氏は、カナタイプの普及とカナタイプ速記者の養成計画を実践しました。
- 松井が主唱した新職業訓練課程「カナタイプ科」が、1968年に国立東京視力障害センターに設置され、盲学校でもコミュニケーション教科でカナタイプを指導するようになります。





オプタコン

- 視覚障害者が可能性を広げる技術として、松井が普及に力を注いだのは「オプタコン」（触覚読書器）でした。オプタコンとは、米国のスタンフォード大学のリンビル教授が開発した視覚障害者用触覚読書器です。小型カメラと 100 本以上のピンが並んだ触知盤からなり、右手でカメラを移動させながら、左手の指で振動するピンの形を読み取っていけば、一般の文書が直接「読める」というものです。
- オプタコンは、パソコンに取って代わられるまで、盲学校の授業準備や理学療法士のカルテチェックに利用され、全盲のオプタコン利用者からは、コンピュータプログラマ、教師や公務員が誕生しました。





音声電卓

- ・ シャープが開発した音声合成技術を応用した世界初の音声電卓です。押したキーボタンの数字や計算記号、また計算結果を自動的に読み上げてくれます。音量、音声速度、位取り有無等各種設定切り替えが可能で、キーには点字表記のカバーが付いています。先進の音声合成技術を用い演算の経過や結果などを音声で伝えることで計算の正確性を高めようとした画期的な製品でした。
- ・ キー操作を音声で伝えるこの電卓は「しゃべる電卓」として大いに話題になりました。この技術は、その後、時計や電子レジスタにも搭載され、視覚障害者にとっても生活に役立っています。





ダイヤル式電話機 (黒電話)

- 平塚盲学校の内線で実際に使われていたダイヤル式の電話です。現代のスマホ世代には使い方がわからないかもしれませんね。数字の穴に指を入れて時計回りにダイヤルを回して、ストッパーのところに来たら指を離すとその数字が発信される仕組みです。
- 視覚障害者でも数字の番号がわかるように、ダイヤルに3・6・9の数字を指示するガイドのしるしが付けられています。7番なら6の穴からひとつ後ろにずらした穴に指を入れて回せばいいのです。





盲人用そろばん

- ・ 視覚障害者用算盤には大きく分けて関東式と関西式があります。関東式算盤は、明治44年（1911）東京盲学校訓導岸高丈夫が考案したもので、珠のかわりに足袋を止める「こはぜ」のような平たい板が前後に倒れます。また枠には位取りがわかりやすいように鉗が打ち込まれています。この関東式算盤が戦後発展を遂げ主流となります。
- ・ 戦後、鈴木栄が岸高式算盤を原型として木片をプラスチックに替えて大量生産し、「明星式算盤」として広く普及しました。





新幹線ひかり号の 模型教材

- ・ 東京オリンピック開催直前の昭和39年10月1日“夢の超特急”である東海道新幹線が開通しました。
- ・ 開通直前の9月20日、本校全児童生徒120人が試乗に招待され、小田原一東京間往復「超特急ひかり号」の旅を楽しみました。国府津在住のPTA会長であった剣持さんが当時の国鉄の石田総裁と隣組であった縁で実現しました。





スライドショー 『私たちの学校』

- ・ このスライドショーは平塚盲学校の創立50周年を記念して、昭和34年に制作されたアルバム『私たちの学校』に収められた当時の本校の様子を記録した写真です。
- ・ 現在の校舎になる前の木造校舎での学校の様子がわかる貴重な映像記録です。戦前戦後は江南高校にあった県立平塚盲啞学校の校舎から、昭和25年に現在の場所に新築移転し、県立平塚盲学校としてスタートした時代です。
- ・ 昭和35年には生徒数が史上最多の143名というピークを迎え、授業も行事も寄宿舎も大勢の生徒たちがにぎやかに過ごしていた活気ある時代の様子が伝わってきます。





盲人用もぐさ点火器

- ・灸療法でもぐさに安全に点火するための装置です。このもぐさ点火器は本校の理療科教員たちが、研究・開発し何回かの試作検討を経て、鈴木医療器株式会社によって製品化されました。
- ・はじめは懐中電灯を改造したものやペンタイプのものを作ってみましたが、当時の電池だと十分な火力を得られなかつたので、電気式に改良しました。この研究開発は『理療の科学』にも論文掲載されています。

その他の展示 紹介



日本点字の父 石川倉次

日本点字の父 石川倉次



点字の発明者 ルイ・ブライユ

点字発明者 ルイ・ブライユの胸像



神奈川県章 触察用自作教材

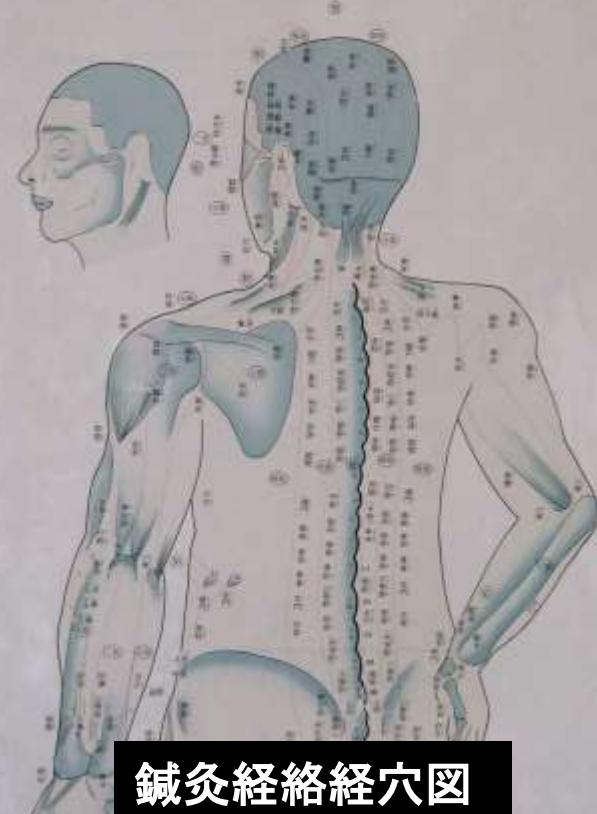




昭和の木製椅子・机・教卓

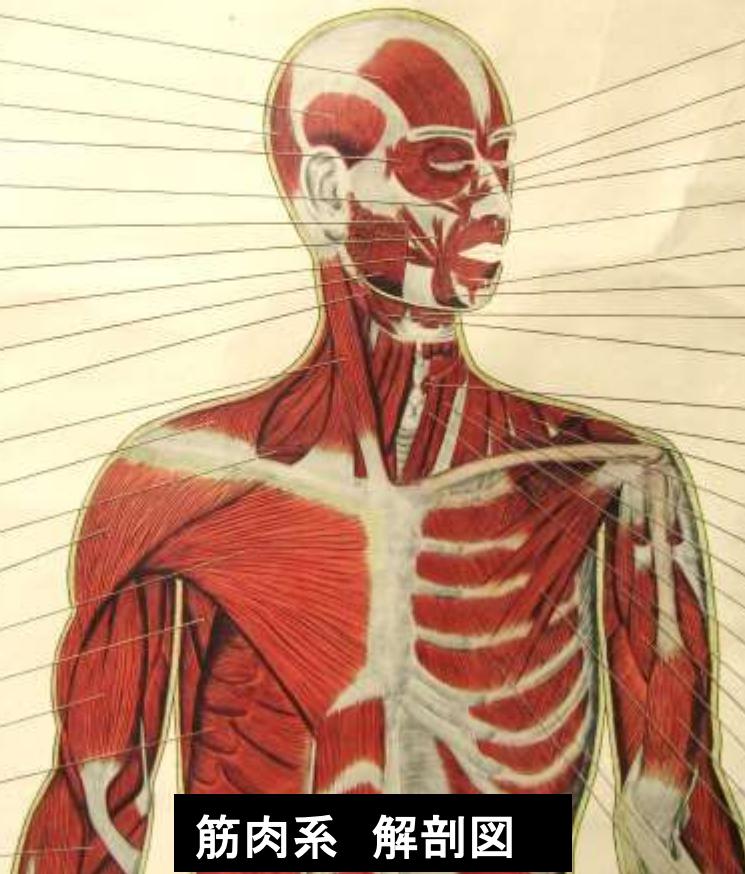
ATLAS OF ACUPUNCTURE POINTS

鍼灸經絡經穴圖鑑



鍼灸經絡經穴圖

筋系(前面)



筋肉系 解剖図



杉山検校像

古代『九鍼』模型（昭和11年製）



九鍼 模型



大正時代 生徒成績表綴り

私立盲人学校報告
明治43年一大正5年
神奈川県立中郡盲人学校

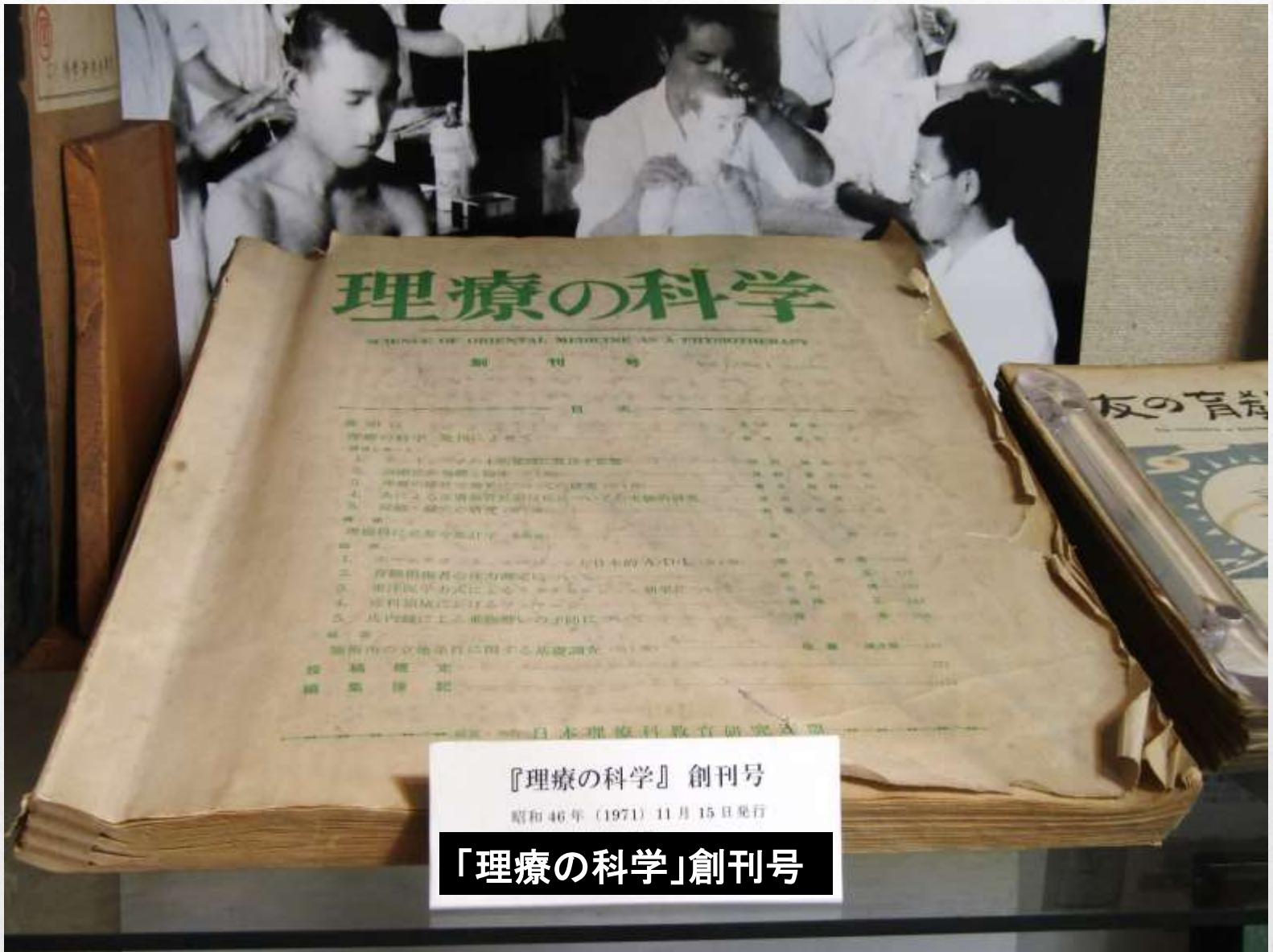




『盲教育』創刊号
昭和34年11月発行

「盲教育」創刊号

全国盲教育研究大会
昭和35年8月 会場：平塚盲学校



『理療の科学』創刊号

昭和 46 年 (1971) 11 月 15 日発行

「理療の科学」創刊号



昭和時代の教科書・参考書

平盲ミュージアム
入場無料